

## 学校評価アンケートから



【定期テスト関係】  
定期テストを廃止する学校が増えていないように感じます。なぜ？定期テストを行わないのですか？

アンケートの返答率が昨年度より上がりましたが、30%弱となっています。そのため大多数の意見とはなっていませんが、ご心配の声に対する回答となっています。



### 定期テスト廃止について

#### ○学習指導要領の視点から

定期テストを見直した理由の一つに、学びのリズムが必ずしも子ども中心になっていなかったことや、教科の学習内容のまとまりが分断されてしまう面があったことがあります。

現在の学習指導要領では、知識の量だけでなく、学びの過程や成長の様子を大切に評価が求められています。本校では、その趣旨を踏まえ、日常の学習の積み重ねや単元ごとの理解を丁寧に見取る評価へと転換しています。

定期テストを行わないこと自体が目的ではなく、生徒一人一人の学びをより深く支えるための方法として、現在の形を選択しています。

#### ○増えていない現状について

定期テストの在り方については、全国の学校においても議論が進められています。長年続いてきた教育方法を見直すことは、保護者や教職員にとって大きな転換となるため、各学校がそれぞれの実態や地域の状況に応じて慎重に検討している段階にあると考えています。

新しい教育の取組には、十分な共通理解や段階的な準備が必要であり、一斉に同じ方法が広がるものではないと考えます。それぞれの学校が議論を重ねながら、よりよい在り方を模索している状況にあると考えます。

本校では、生徒が主体的に学び、挑戦する姿勢をもちつづけることを大切に教育を進めています。その一環として、評価の在り方についても、生徒が自ら学びを振り返り、自立した学習者として成長することを目的に見直しを行ってきました。今後も理念に基づきながら、必要な改善を続けていきたいと考えます。



【定期テスト関係】  
学力テストの学習計画表の活用が上手くできていなかったのでしょうか？



学習計画表の活用については、生徒一人一人の学び方や特性が異なることから、効果的に活用できる場面や方法にも個人差があると考えています。従来から、同一の方法が全ての生徒に同様に機能するわけではないことを前提に、複数の学習支援の方法を組み合わせました。

予測困難で変化の激しい社会においては、論理的に整理して考える力に加え、多様な視点から柔軟に発想し、新たな解決策を見いだす力も求められています。本校では、こうした多面的な思考力を育むことを重視し、画一的な方法に限定せず、生徒の実態に応じた学習の進め方や振り返りの方法を工夫していききたいと考えます。その上で、学習計画が形骸化しないよう、活用の仕方については今後も指導方法の改善を図っていきます。



【学力の経年経過について】  
定期テストがあった頃よりも学力が悪くなっているのではないかと？



集団の学力の経年経過については、年度や学年の特性、進路希望の多様化等、さまざまな要因が影響するため、一概に評価することは難しい面があります。一方で、生徒一人一人の学力の定着状況については丁寧に分析することが大切であり、今後も必要な改善を図っていきます。

このことについては、学年 PTA 懇談会時の教育活動説明会で説明予定です。



### 【ループリック関係】

レポート等の課題に AI 利用している生徒がいると聞きます。真剣に取り組んでいる生徒が損をしていると心配です。



提出物やループリック評価に関して、不公平感や AI の活用による評価への影響についてご心配の声があることは、学校としても重く受け止めています。

本校では、年間を通して「学問的誠実性」を大切にしながら指導を行っています。学習とは、他者との比較や評価のためだけではなく、自らの成長と社会への貢献につながる営みであり、不正行為や安易な成果の追求は最終的に自分自身の力にならないことを生徒に繰り返し伝えているところです。AI 等の活用についても、単に評価を高めるための利用ではなく、学びを深めるためにどのように適切に使うかという観点から指導を行っています。

また、本校では道徳や日常の教育活動を通して、周囲の評価や他者との比較によって行動を決めるのではなく、自らの価値観や判断に基づいて学びに向き合う姿勢を育てています。学校としては、生徒が自分自身の成長に責任をもち、主体的に学び続ける姿を支えていきたいと考えています。

一方で、評価の公平性や生徒の実態に応じた評価方法の改善については、学校としても継続的に検討していく必要があると認識しています。提出物のみで評価が偏ることがないように、多様な評価方法を組み合わせながら、生徒の学習状況を多面的に見取る取組を進めていきたいと考えます。



### 【自分プレゼンについて】

自分の考えを形にすることは大切だが、もう少し現実的な目標を持てるような時間がほしかった。



自分プレゼンは、生徒が自らの学びや成長を振り返り、自分の考えを言葉にする力を育てることを目的として実施しており、これまで多くの教員および保護者から意義ある取組として評価をいただいています。一方で、ご指摘のように、より現実的な目標設定や具体的な助言が必要であるという点については、今後の改善に生かしていきます。

また、担任との相談時間について不安を感じておられることについても、学校として真摯に受け止めています。生徒一人一人の状況や必要な支援の内容は異なるため、画一的な時間設定ではなく、個別の状況に応じた対応が重要であるとと考えています。

今後は、三者懇談の案内に事前相談の希望を受け付けていることを明記するなど、日常的に相談できる体制があることを改めて周知し、生徒・保護者が必要なときに十分な対話の機会を確保できるよう努めていきます。



### 【部活動について】

部活内での人間関係が心配です。



部活動は、生徒が安心して所属し、互いを尊重しながら成長する場であると考えています。今後も部活動顧問および関係教職員と連携し、生徒の様子や人間関係について丁寧な確認を進めながら、必要に応じて生徒への指導や話し合いの機会を設け、誰もが安心して活動できる環境づくりに努めてまいります。「技術の向上」だけでなく、「人との関わり方を学ぶ場」であることを大切に、生徒一人一人の様子に目を向けながら指導・支援を継続してまいります。

ご心配の声以外にも、本校の教育活動への応援等の声も寄せられ感謝申し上げます。ご心配の声にもそして、応援の声にもできるかぎりお応えしたく、2026 年度の新たな取組・改善する取組について教育活動全般の説明を学年末の PTA 懇談会で実施予定です。